

## 「リズムで発音練習 シラバス」

課	タイトル	学習項目	タスク
1 ★	発音練習を始める前に	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発音練習の意味の確認</li> <li>・ミスコミュニケーションの原因となる発音について考える</li> <li>・自分自身の発音の問題点を意識化する</li> </ul>	ミスコミュニケーションの原因となる発音を探す 自己紹介録音
2 ★	拍の感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拍の特徴を知る（外国語との違い）</li> <li>・拍の等時性の把握</li> <li>・拗音 ・ 4 拍の短縮語</li> </ul>	短縮語について知っているものをあげる
3 ★	日本語のリズム 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムの特徴とリズム単位</li> <li>・拍とリズム</li> <li>・挨拶用語の練習</li> </ul>	
4	日本語のリズム 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前・国名などのリズム</li> <li>・リズム型の分節方法</li> <li>・自己紹介・敬語</li> </ul>	自己紹介
5 ★	長いリズム単位	長音の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長音を含む単語の練習</li> </ul> パーティーの計画
6 ★		促音の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・促音を含む単語の練習</li> <li>・て形、た形を利用した対話練習</li> </ul>
7 ★		撥音の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撥音を含む単語の練習</li> <li>・擬音語・擬態語を利用した練習</li> </ul> 撥音を含む擬音語・擬態語で知っているものをあげる
8		連母音と 3 拍一つのグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連母音を含む単語の練習</li> <li>・3 拍で一つになるグループの練習</li> </ul>
9 ★	縮約形の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縮約形音変化「ちゃう／じゃう」</li> <li>・縮約形音変化「きゃ／くちゃ」</li> </ul>	まんがの吹き出し作成
10	気をつけたほうがよい発音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清音と濁音</li> <li>・「さ」と「しゃ」「ざ」と「じゃ」</li> <li>・は行の「は」「ひ」「へ」「ほ」</li> <li>・母音の無声化</li> </ul>	自分の発音学習方法について話し合う
	コーヒーブレイク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早口言葉</li> <li>・川柳や俳句</li> </ul>	
11 ★	日本語のアクセント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセント規則・アクセント型</li> <li>・疑問文におけるアクセント</li> <li>・頭高型アクセントの単語</li> <li>・中高型アクセントの単語</li> <li>・尾高型アクセントの単語</li> <li>・助詞との関係</li> <li>・平板型アクセントの単語</li> </ul>	母語のアクセントについて話す

12	アクセントの機能と複合語のアクセント	・アクセントの違いによる意味の違い	母語のアクセントの機能について話す
		・複合語のアクセントの規則	国や文化などの紹介
13 ★	日本語のイントネーション	・イントネーションの規則 ・への字イントネーション ・アクセントとの関係 ・イントネーションの山の聞き取り	
		・疑問文のイントネーション ・文末の聞き取り ・文末上昇型疑問文の練習 ・文末下降型疑問文の練習	
		・気持ちを伝えるイントネーション	
14 ★	区切り・ポーズ	・区切り・ポーズの規則 ・意味のまとまりを意識した区切り方の練習	朗読練習
15	プロミネンス	・プロミネンスの置き方	会話作り
16 ★	発音練習を終えて	・発音練習を振り返る	日本での経験について話す
	コーヒープレイク 2	・発音の練習の方法について	

## CDについて

CDの練習用音声にはビート音が入っています。ビート音は8ビートで1パターンとなっています。簡単な練習ですが、発話するタイミングを間違えるとずれてしまうので、練習の前に本文の使い方の練習例を参考に、発話するタイミングを練習させてください。特にオーバーラッピングはモデルと同時に同じ速さで一気に発話するので、使用前に必ず発話するタイミングを確かめてください。最初は合わせるのが難しいかもしれません。その場合は一度、教師と一緒に練習してからか、リピート用のビート音で練習してから行うといいでしょう。

初中級や中級の前期の学生には、リピート用のビート音をオーバーラッピング用として使うと発話しやすくなります。特にリズムを意識してほしい第12課までビート音を使用しています。そのうち第2課は拍がわかりやすいようにスピードをゆっくりにしてあります。第3課の練習2からは、ビート音が速くなるので、注意してください。ただし、どの課も対話練習にはビート音を入れていませんので、オーバーラッピングは教師が入るタイミングが遅れないように気をつけてください。

第13課以降の音声にはビート音を入れていませんが、短い文などリズムを意識させて練習をしたい場合は、このサイトにあるビート音を利用して練習してください。

## 第1課 発音練習を始める前に

### \*指導のしかた・注意点

この課は、発音練習を始める前に発音学習の意味や目的を確認し、学生のモチベーションを高めることを目的にしています。発音は、目的意識やモチベーションによって学習効果が大きく左右されますので、学習の目的や練習の意味を十分に理解させてください。

#### 【1回目】

**タスク②** カードの文には学習者の問題点としてよく取り上げられる、特殊拍（長音・促音・撥音）の問題、アクセントの問題、イントネーションの問題を取り上げています。ペアワーク後には解答を兼ねた簡単な解説を行ってください。

#### 【2回目】

**タスク③** 対話を聞いて、間違った発音が何かを聞き取り、正しい発音を考えて書くタスクです。対話には日本語学習者が間違いやすい例、特殊拍、清濁の混同などを取り上げています。別冊解答にスクリプトと解答があります。

**タスク④** 自己紹介を録音し、聞き直して自分や相手の問題点を確認するものです。授業では相手の発音に対するコメントのみを行い、録音のチェックは宿題にすることも可能です。教師が個別にフィードバックをするとさらに効果があります。

## 第2課 拍の感覚

### 拍

日本語の音の長さを表す基本的な単位です。モーラと言われることもあります。拍は長さがだいたい同じだと言われていて、2拍は1拍の2倍の長さがあります。実際に音響機器などで測定すると、それぞれの拍が、まったく同じ長さというわけではありませんが、ほぼ同じと考えてください。音節とは次の点で異なります。「あ」「か」は1音節=1拍、「カー」は1音節ですが、拍で数えると2拍になります。

### \*指導のしかた・注意点

この課では日本語のリズムの基本となる拍の学習を行います。拍はほとんどの学習者が入門期に学習していますが、学習期間が長くなっても、拍の感覚を掴めない学習者が少なくありません。拍の等時性（それぞれの拍が同じ長さであること）を習得させるために、拍を意識した練習を行います。

学習者には1拍=ひらがな一つ分の長さで、特殊拍も1拍分の長さがあること、拗音は1拍であること、拍はだいたい同じ長さであることについてポイントの例を使いながら説明してください。CDのビート音は、拍の感覚、等時性を意識させるため、3課以降のビート音より速度を遅くしています。

#### 【1回目】

**練習①** 特殊拍を1拍に数えることと1拍分の長さがあることを確認してください。特に撥音が含まれ

る音節を1拍に数える学生が多いので注意してください。

**練習②** 外国語が日本語の拍で発話されるとどうなるかを実感させるための練習です。例えばオーマイガットだと、英語では3音節、日本語だと7拍だということがわかることで、日本語の拍の特徴を体感でき、音節と拍の違いを理解できます。

**練習③** 等時性の感覚を掴むための基本的な練習として行います。

## 【2回目】

**練習④** 「ーや、ーゆ、ーよ」などの拗音の練習を行います。拗音を2拍ではなく、1拍の長さで発音する練習です。例えば「ひやく」は2拍ですが、拗音を正しく発音できない学習者は「ひやく」というように3拍で発音する場合があります。拍の数で語の意味が変わることを確認させてください。

**練習⑤** 短縮語を使って拍の感覚を練習します。日本語では長い言葉は4拍の語に短縮する傾向があると言われています。これは日本語のリズムの単位に関係していて、名前やあだ名（じゅんこちゃん→じゅんちゃん）、若者語や流行語の中にもこのような現象が多数見られます。（あけましておめでとう→あけおめ）。**練習⑤**では太字になっている部分が残し、あとは省略されます。クラスでは言葉の形を確認してから、リピートを行ってください。

**タスク** 学習者が知っている短縮語についてペア、グループなどで話し合わせます。話し合ったあと時間があれば、グループごとに発表させてもいいですし、元の言葉は何かというクイズ形式にして発表してもいいです。

## 第3課 日本語のリズム

### \*指導のしかた・注意点

この課では、リズム単位の規則、単位の分節方法を学びます。

### 【リズム】

リズムは拍をもとにしたリズム単位が基本になっています。リズム単位は1拍（短い単位）と特殊拍（長音・促音・撥音）、連母音などの2拍のかたまり（長い単位）で、この組み合わせによって日本語のリズムが形作られます。また1拍の短い単位が連続する場合、2拍1つにまとめて発音する傾向があり、これを2拍フット（または2モーラフット、バイモーラフット）と言います。日本語のリズムは、短い単位、長い単位、短い単位二つを一つにしたものの組み合わせだといえます。このテキストでは拍、リズム単位、リズムを図のように定義しています。

#### 【拍とリズムの関係】

リズム	●● <u>      </u>	●●●● <u>      </u>	● <u>      </u>
リズム単位	●● <u>      </u>	●●●●	● <u>      </u>
拍	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
	おはよう	いまから	じゅぎょう？

### 【1回目】

**練習①** 拍とリズムの違いを確認する練習です。正しい拍で発音されてもそれだけでは、自然には聞こえないことを確認してください。最初に拍、それからリズムを意識した練習を行います。

**練習②** リズムを意識した練習を行います。この練習からビート音のスピードが第2課より速くなります。使い方の章にある、リピート、オーバーラッピングの例を聞かせてから練習させてもいいと思います。ここでは単語ではなく文になっています。

### 【2回目】

**練習③** ここでは定型表現を用いてリズムの練習を行います。この時点では、リズムだけに集中させるため、アクセントやイントネーションについては特に説明せず、リピート、オーバーラッピングさせてください。

**練習④** 練習③と同様の練習ですが、行ごとに同じリズムの形になっています。

**練習⑤** 対話形式でリズムの練習をします。まずリピート練習のあとに、ペアで練習しますが、その際、リズムを意識させてください。CDでの練習が終わったら、□の言葉を使って置き換え練習をします。置き換え練習の前に□の単語のリズムを確認しておくといいです。

## 第4課 日本語のリズム2

### \*指導のしかた・注意点

この課では、学習者の名前や国、町のリズムに気をつけて、自己紹介をします。リズム単位のまとめ方の指導は以下のように行います。

1. 名前や国、町をカタカナで表記する。
2. 長いリズム単位、短いリズム単位にまとめる（リズムの記号を書かせるとわかりやすい）。
3. 短いリズム単位のうち「です、ます」、2拍ひとまとめにできるものに長い単位の記号を書く。
4. 正しくできたか確認する。
5. 正しいリズムで発音する。

### 【2回目】

**練習⑤⑥** 初対面の場面を想定して自己紹介の練習をします。**練習⑤**はフォーマル、**練習⑥**は砕けた形での練習になっています。ビート音がありませんので、オーバーラッピングは教師がタイミングに気をつけてください。

**練習⑧** 初めてシャドウイングが出てきますので、やり方をよく確認して行ってください。

注意： eとiの母音が連なると、eeと発音されます（第5課で解説）が、この課のスペイン（supein）やメイン（mein）、レインコート（reinkooto）などの外来語はオリジナルの音を残して、eeではなく、eiと発音されます。

## 第5課 長音

### 長音

同じ母音が2つ連続するときの音です。「おとうさん」、「せんせい」などのou、ei は、実際には、oo、ee と発音するのが普通なので、長音として扱っています。長音自体に1拍分の長さがあるので、長音を含む音節は2拍分の長さがあります。4課注意を参照ください。

### \*指導のしかた・注意点

#### 【1回目】

**練習②** 日本語では長音がある語とない語では意味が変わることを確認させてください。

**練習③** ミニマルペアの対話練習は、実際に起こりうる状況を設定してあります。まず、モデル対話を聞いたあと全員でリピートさせてください。ペアに分かれて代入練習させてください。**練習①②**のリピート練習ではできていても、対話練習形式の**練習③**ではうまくできない場合があります。**練習③**により意識して練習することで、自分がきちんと発音できているかどうか、再度確認することができます。

#### 【2回目】

**タスク** 長音を含む身近な語を用いて話す練習をします。グループに分かれてリストの語彙を用いながら活動をさせてください。リストの語彙はCDにありませんので、タスクを行う前に、発音練習をするとよいでしょう。

## 第6課 促音

### 促音

「っ」「っ」で表す音を促音と言います。原則として、和語では無声音のみですが、外来語では有声音も促音になる場合があります(例 ベッド、バッグ)。その場合、促音のあとの有声音が無声音になる場合があります(ベット、バック)。その他にも強調する場合に促音が入ったり(すっごい)、同じ子音に挟まれた母音が脱落して促音化することがあります(あたたかい→あったかい)。促音の部分も1拍分の長さがありますので、促音を含む音節は2拍分の長さがあります。

### \*指導のしかた・注意点

#### 【2回目】

**練習⑤** 文の中にある促音の練習です。

**練習⑥** 動詞の活用に促音を含む語を用いた練習です。

**タスク** 文脈を考えて文を作らせてください。練習の前に少し考える時間を与えて、準備させてから練習するとよいでしょう。

## 第7課 撥音

### 撥音とは

かなでは「ん」「ン」と表記される音ですが、音の環境によっていくつかの異音（音声学的に異なる音）があります。（[m, n, ɲ, h, N, ɲ, ŋ]）。撥音自体に1拍分の長さがありますので、撥音を含む音節は2拍分の長さになります。日本語学習者は十分な持続時間が保てず、「女の子」が「オナノコ」、「本を読む」が「ホノヨム」になったりします。

### \*指導のしかた・注意点

撥音「ん」には異音があり、音の環境によって異なった音声で発音されますが、日本語では全て「ん」で表します。撥音は学習者によっては単音レベルでも難しい音です。この課ではリズムという観点から撥音を捉えて練習させます。持続時間の問題に加えて、撥音で終わる単語と助詞「の」などの問題もリズムで解決することができます。

### 【2回目】

練習⑤ 擬音語・擬態語で撥音を含むものを練習します。意味の確認が必要ですが、時間的に余裕がない場合は、授業では発音練習を行い、各自確認させてもよいでしょう。

## 第8課 連母音と3拍一つのかたまり

### 連母音

日本語は異なる母音が連続する際、母音が単独で発話される分の長さを保ったまま連続します。これを連母音と言います。（ai、ao など）そのうち、ei やou などの連母音は、自然な発話では長母音化するので、このテキストでは長音に含めています。

### \*指導のしかた・注意点

連母音のリズム単位については、区切り方に諸説ありますが、このテキストでは長いリズム単位として扱っています。学習者の中には連母音を2重母音として発音するため、持続時間が短くなったり、一方の母音を強く発音したりし、もう一方が十分に発音されないことがあります。連母音も長いリズム単位であることを意識して発音することがこの課の目標です。指導では、後ろの弱い母音iをはっきり発音するようアドバイスすることがコツです。また、弱い母音の組み合わせや、弱い母音と強い母音の組み合わせなどの語は、短いリズム単位二つとして発音したほうが、発音しやすい場合もあります。例えば、ue: う/え（上）、ie: い/え（家）、ia: オー/スト/ラリ/ア（オー/スト/ラ/リヤになるのを避けるため）などです。このテキストの連母音用の語彙は、ai oiを含む語を中心に用いています。

また、このテキストではこれまで学習してきたリズム単位以外に、連母音と撥音の組み合わせを、3拍分の長さを持つ「3拍ひとまとまりの単位」として扱っています。会話などでよく使われる「～たいんです」や外来語などにも多いので取り上げました。

## 第9課 縮約形

### \*指導のしかた・注意点

日本語の会話では縮約形が使われることがあります。縮約形とは音変化の一つで、音が欠落したり、省略されたり、違う音に変化したりしたものです。このテキストでは、①～ちゃった/～じゃった、②～

なきゃ、③～なくちゃの三つを取り上げています。リピート練習の前に、変化の規則を十分に練習しておいてください。また、縮約形がどんな場合に使われるかにも触れてください。

元の形	縮約形
……てしまう	……ちゃう
……でしまう	……じゃう
……なければ (ならない)	……なきゃ (なんない)
……くては (いけない)	……なくちゃ (いけない)

### 【1回目】

**練習③** 対話では最初のセリフを考えなければならぬので、少し時間を取って、場面や使う縮約形を考えさせてから練習を行ってください。

### 【2回目】

**練習④⑤** どちらの練習も最初の例はCDに入っていないので気をつけてください。

**タスク** ペアで考えさせ、発表させるとよいでしょう。最後のセリフは、2パターンあるので、学生に選ばせてください。

## 第 10 課 気をつけたほうがいい発音

### ・清音・濁音

特に韓国語母語話者・中国語母語話者に清音と濁音、半濁音と濁音の混同が見られます。これは母語に清音と濁音、あるいは半濁音と濁音の対立がないことが理由だと考えられます。彼らの母語には有気音と無気音の対立があるので、それで代用する場合がありますが、日本人にはそれが清音か濁音か半濁音かはっきりわからないことがあります。音環境によっては、ドイツ語母語話者、スペイン語母語話者にも限定的に清音・濁音の混同が見られます。

### ・直音（拗音でない音）の拗音化・拗音の直音化

本来直音で発音すべき音を、拗音で発音する学習者がいます。（例 考察→こうしゃつ）。その逆に拗音で発音すべき音を直音で発音する場合があります（例 会社→かいさ）。この現象はベトナム語話者、韓国語母語話者らに見られます。

### ・【h】の欠落

【h】の欠落はスペイン語、フランス語、イタリア語母語話者や韓国語母語話者に見られます（例 話→あなし）。また、逆に本来【h】の音がないところに、【h】を挿入して発音するフランス語、イタリア語母語話者もいます。（例 穴→はな）

### ・母音の無声化

共通語では、無声子音（s, t, k）に挟まれた弱母音（i, u）は聞こえにくくなる場合があります。これを無声化と言います。アクセント核がある音節は無声化しません。また、地域や話す速度（ゆっくりと発音された場合）によっては無声化しないこともあります。そのため、学習者が必ずしも無声化を習得する必要はありませんが、この現象を学ぶことで、聞き取りに役立てることができます。





## 第 11 課 アクセント

### アクセント

声の強さや高さなどで語の意味を区別するサインです。日本語のアクセントは高低アクセントと言われ、①頭高型、②中高型、③尾高型、④平板型の4つのパターンがあります。①～③はアクセント核と呼ばれる部分（単語の音が低くなる部分）があり起伏型と言われています。④はアクセント核がない（下がる部分がない）ので平板型と言われています。単語だけでみると③はアクセント核の位置がわかりませんが、単語の後に助詞がつくとアクセント核が現れます。アクセント核の位置はイントネーションやプロミネンスに影響されません。

### \*指導のしかた・注意点

日本語のアクセントを、名詞を中心に練習します。

このテキストではアクセント核の位置を「」という記号で表しています。また音の高低を視覚的にイメージさせるために、 という記号を用いている部分があります。ここでは、アクセントの規則の学習と、アクセント型による高低の感覚の養成を行います。アクセントの位置（アクセント核）は拍と大きく関係しているので、ビート音を用いています。

### 【1回目】

**練習②** アクセントの位置がイントネーションに影響を受けないことを理解する問題です。文末があがっても、アクセントの位置は変わりません。学習者によっては文末の上昇に影響されて、アクセント型が変わってしまう場合があります。

**練習③** 聞き取り問題ですが、アクセントの位置の聞き取りはかなり難しいので、高低のイメージが違うものを選ぶという問題にしました。

**タスク** 母語のアクセントについて話すようになっていますが、学習者は母語のアクセントを意識していない場合が多いので、日本語と同じか違うかだけの確認でもかまいません。

**【2回目】** 以降はそれぞれの型に焦点をあてて練習を行います。**練習⑤⑧⑩⑬**のペアでの入れ替え練習では、同じアクセント型の語を入れ替えていくので、アクセントのイメージがつかみやすくなっています。

## 第 12 課 アクセントの機能と複合語アクセント

### \*指導のしかた・注意点

アクセントの重要な機能の一つとして意味の弁別という働きがあります。同じ表記で書かれた文でも語のアクセントが違うことで意味が変わることがあります。この課ではそのことについて学習し、練習します。またこの課のアクセント記号は、学習項目を焦点化するために、意味の違いの要因になる部分だけにつけてあります。また、複合語のアクセントについても練習します。日本語のアクセントは二つの語が一つになった場合、アクセントの位置が変化します。その基本的な規則と発音を学びます。

### 【1回目】

この課では**練習①**で聞き取りによって意味の違いを理解し、**練習②**以降発音練習を行います。アクセントの違いが意味の違いに大きく関係することを指導し、アクセントの学習のモチベーションにつなげてください。**タスク**は学習者の母語にも同じような現象があるかをペア、グループで話し合います。

### 【2回目】

複合語のアクセントを扱います。ポイント部分がやや複雑なのですが、規則を覚えさせるというよりは、このような規則があるということ、1語の中に複数のアクセントを置くと2語に聞こえることなどを指導してください。練習では実際によく使う複合語を取り上げているので、練習用の語の発音をそのまま暗記させるのもいいでしょう。**練習③**、**タスク**は自己紹介や文化などの紹介ですが、使用する複合語のアクセントに集中的に注意を払って練習するようにしてください。

## 第13課 日本語のイントネーション

### イントネーション

このテキストでのイントネーションは文の中での音の高低の変化を指します。日本語のイントネーションは平叙文の場合、への字型といわれ、徐々に低く弱くなっていく傾向があります。また、アクセントの位置が変わらないまま、低くなっていくので、階段状になっていきます。平叙文が下降型なのに対し、疑問文は一般的に文末が急に上がる上昇型のイントネーションです。ただし、「でしょうか」など丁寧さを出したいときには、下降型になります。

### \*指導のしかた・注意点

#### 【1回目】

平叙文のイントネーションについて学びます。平叙文のイントネーションは、への字のようにだんだんと下がっていきます。文が終わりに近づいているにもかかわらず、強さや高さを保ったまま発話すると、詰問調、無愛想に聞こえる場合があるので気をつけさせてください。

**練習②** 日本語の平叙文のイントネーションはアクセント型の組み合わせによって4種類に分けられます。その種類別の練習です。文の中では最初のアクセント核が最も大切ですので、そこには特に気をつけるようにしてください。

#### 【2回目】

疑問文のイントネーションの練習です。日本語の疑問文の場合、基本的に文末が上がりますが、疑問詞があるときに文末を下げると、怒っているように聞こえることがあります。また、学習者の中には文末の上がり方が足りない場合があるので、注意してください。必要に応じてどのぐらい文末を上げると、疑問文に聞こえるかについても指導してください。

#### 【3回目】

会話文のイントネーションを学習します。会話文なので比較的短いですが、発話意図によるイントネーションのバリエーションを練習します。バリエーションのうち一般的なコミュニケーションに役立つようなものを選んで、まずはイントネーションの違いの聞き取り、意味の把握、発音練習をし、文脈を考え、気持ちをこめて発話する練習を行います。

## 第 14 課 区切り・ポーズ

### 区切り・ポーズ

区切りとは意味のまとまりのことで、一気に発話され、イントネーションの大きな山になります。ポーズは休止で、置く位置によって、時間的に短くなるものと長くなるものがあります。

#### \*指導のしかた・注意点

この課では音と意味のまとまりを意識させ、意味の取り違えがないようにする練習を行います。特に区切りに注目させ、わかりやすく聞き取りやすい発話の練習を行います。区切り方は状況や個人によって差がありますが、発話速度なども意識して、文節→句→文で区切りながら発話させます。この練習によって発話に流暢さが増すことも期待しています。

#### 【1回目】

練習① この聞き取りでは区切りやポーズがコミュニケーションに大切なことを確認してください。

練習② まず意味のまとまりに区切らせ、CD を聞いて比較させてください。区切りには個人差があるので、学生がつけた区切りが教師の判断で許容できるものであれば正解としてください。

練習③ 意味の違いを確認してください。

#### 【2回目】

練習④ 区切り方を少しずつ長くしていく練習です。意味のまとまりを一気に発話できるようになると、聞きやすさが向上します。2でも自然な区切り方なので、十分だといえますが、ここでは、なめらかな発話のために3まで練習します。テキストでは練習文は1つですが、必要に応じて文を追加してください。

タスク 練習はシャドウイングまでですが、時間があれば、個別に読み上げさせ、わかりやすいかコメントしてもよいでしょう。

## 第 15 課 プロミネンス

### プロミネンス

強調したい部分を他の部分と区別するために、強く、高く、大きく、ゆっくり発音することを言います。

#### \*指導のしかた・注意点

この課ではプロミネンスの練習を行います。会話ではへの字型のイントネーションが強調などによって変化します。強調するときはその前や後に区切りができたり、強調される語が高くあるいは強く発音されたり、ゆっくりと発音されたりします。どこが強調されているのかを聞き分け、プロミネンスを置く場合の自然なイントネーションの練習を行います。素材として、演劇や映画などの有名なセリフを用いています。

## 第 16 課 練習を終えて

### \*指導のしかた・注意点

この課ではこれまでの練習を振り返り、自分の発音が向上したか、さらに問題がある場合は、これからどう学習するかを考えさせます。

まず、**タスク①**の項目を各自でチェックさせてください。そのあとで**タスク②**で発音上の問題点がないかチェックさせます。次に練習開始時にあった問題点が改善していたか、教師側でチェックします。個別に学習者の問題点の指摘やアドバイスを行います。そのほか、学習者にアンケートをとって、クラスや教師自身のフィードバックも行います。

### 参考文献：

- 鹿島央（2002）『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』スリーエーネットワーク  
窪菌晴夫監修（1999）『日本語の発音教室 理論と練習』くろしお出版  
国際交流基金（2009）『日本語教授法シリーズ2 音声を教える』ひつじ書房  
戸田貴子（2004）『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク  
日本語教育学会編（2005）『新版 日本語教育事典』大修館書店  
中川千恵子他（2009）『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳』ひつじ書房